

合同広報誌

つながり

T S U N A G A R I

Vol. 22

令和2年3月

令和元年度 岩手県介護施設等合同入職式



も

く

じ

- P2 岩手県社会福祉協議会高齢者福祉協議会 会長挨拶
- P3 岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長挨拶
- P4 モンゴル国からの実習生受入れの様子
- P5 次世代からのメッセージ～今 思うこと 求められている事とは？
- P6 誰もが安心して暮らせる地域を目指して
- P7 明生園「刻のカフェ」（認知症カフェ）の取組
- P8 りんどう苑での看取り介護の取組について
- P9 令和元年度いわて介護フォトコンテストの入賞作品
- P12 岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会 活動報告
- ・地域包括支援センター活動状況調査2019 調査結果報告書から
 - ・令和元年度東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター職員研修会
 - ・令和元年度岩手県地域包括・在宅介護支援センターフォーラム
- P16 広報委員名簿、会員

～つぶやき～ (part2)

福祉と政治



高齢者福祉協議会
会長 渡辺 均

「福祉と政治」について、措置時代の流れも有り、あまり論じられてきませんでした。「福祉と政治」を論ずるのはタブーとさえ思っていました。

私たちに政治なんて関係ない？・・・「エッ？本当にそれでいいんですか？」

介護保険制度発足以来、介護業界は、国の予算の介護関連費が10兆円を超える巨大産業組織となりました。そうした、巨大産業であるからこそ政治と密着した関係にあります。

昨年、第25回参議院議員通常選挙全国比例区に立候補した角田充由さん、票が伸びず落選しました。得票数は75,242票、全国会員数からみれば10万票は取れる団体組織です。何故伸びなかったのか。全国介護政治連盟で分析した結果、理事長、施設長の管理職層中心の選挙活動が強かったため、職員への下部浸透が乏しかったと分析しました。まったくその通りだと思います。

現在、私たちと志を同じくする、そのだ修光参議院議員に続く2人目とと思っていましたが本当に残念でした。

「制度は政治がつくる」。「介護保険制度」も、皆さんのお給料となる「介護報酬」も、すべて政治で決められています。決してお役所(厚生労働省等)が勝手に決めているではありません。皆さんが選挙で選んだ国会議員が政治の場で審議して決めています。だから、国会議員の先生にはサービスを利用する高齢者の実態や介護現場の課題を知っていてほしいと思うのですが、なかなかそうした国会議員はいません。そのため、時に使い勝手の悪い制度をつくったり、頑張っているのに報酬が下がってしまうようなことが起きてしまいます。これでは、介護を受ける者も、介護を提供する私たちも辛い思いをするだけです。

そこで、私たち介護現場の声を「政治や政策」に反映できるように、私たちの代表を国政の場へ送ることが大切であり、私たちの使命であります。政治に関わることは労力もかかるし、少しはお金もかかります。しかし、私たちは政治から目を離してはいけません。目を離すということは、福祉の業界から離れていくことであり、他人任せになることです。

2年半後には、参議院議員選挙がやってきます。私達の代表である、そのだ修光参議院議員を再度国政に送り、さらにそのだ議員に続く2人目を送る体制を作る強い意志で取り組まなければなりません。

そのためにも、若い職員の皆さんと今後の介護福祉の発展と向上のためにしっかりと「福祉と政治」について話をしたいと思ひますし、理解を求めていきたいと思ひます。令和2年度もよろしくお願ひします。

2020年度に向けて

～全国・県協議会の動き～

岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会
会長 佐々木 茂伸



全国地域包括・在宅介護支援センター協議会が、全国社会福祉協議会の種別協議会化されてから1年が経とうとしていますが、地域包括支援センターと在宅介護支援センターを取り巻く環境は、各地域で様々に変化しています。

全国的には、種別協議会化を起因とした県単位での協議会脱会から始まり、委託事業の終了に伴う在宅介護支援センターの閉鎖がみられ、結果、2019年度当初には、全国協議会加入センターが40%を割った状態となっています。

岩手県における全国協議会加入センター数（2019年8月末時点）は、在宅介護支援センター46、地域包括支援センター21となり、地域包括支援センターの加入率は38.9%となりました。全国と比較し、岩手県は在宅介護支援センターの加入数が多い傾向にありますが、各ブロックで地域包括支援センターの委託化や、在宅介護支援センターの事業廃止などがあり、来年度は新しい体制を構築する必要があるブロックもみられ、今後、加入センター数の維持も重要な課題となっております。

このような中、本会では、令和2年度の東北ブロック職員研修会のホスト県を担うこととなっております。さらに、令和3年度においては全国研修会を北海道・東北ブロックで主催することとなっております。会員の皆様におかれましても、来年・再来年と身近な場所で全国の会員と交流する機会が増えることとなります。

本会は、全国協議会の種別協議会化による役員任期のズレにより、現役員は今年度で任期満了となりますが、各委員会の引継ぎを綿密に行うほか、特に研修に関しては、今年度の東北ブロック研修会に参加した会員や、現役員も含めた企画・運営の準備が必要になってくると思われます。岩手県開催の東北ブロック職員研修会の成功を目指して、今後事務局や研修委員会等から、会員の皆様へ協力依頼があった場合には、快くお引き受けいただくようよろしくお願いいたします。

一方、調査研究委員会では、昨年度に引き続き地域包括支援センターの現状を把握するためのアンケート調査を実施しました。昨年度の調査結果を踏まえ、より具体的な現状を把握できたほか、行政機関との連携なども徐々に見えてきています。今後、地域包括支援センターの業務内容に関して行政機関と認識の共有（地域ケア会議のあり方等）が必要となっており、来年度は調査結果をまとめたうえで岩手県との意見交換の場を設けることも予定しています。

研修会の主催や意見交換会等、来年度以降も重要な活動が控えている岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会です。活動結果が皆様の業務に良い影響として反映されますよう、会員センター一丸となって盛り上げていきましょう。

『安心できる環境を』

～孤独を感じないように～



特別養護老人ホーム三陸園
生活相談員 板澤 智恵美

モンゴル国からの実習生受入れの様子をご紹介します 社会福祉法人 堤福社会

当法人では、令和元年5月に、モンゴル国から2名の外国人技能実習生を受入れました。外国人技能実習生の受入れ自体、当法人初めての試みであり、何もかもが手探り状態で、現場の戸惑いもありましたが、あと数か月で1年が経過します。

現場実習を始めた頃は、実習生は、単語を一つ一つ辞書で調べながら作業を行う必要があったため実習には多くの時間を要し、座学で指導した標準語に関しては、強い方言訛りの職員や利用者様がいたことで、あまり通じないという場面もあり、言葉の難しさを痛感しました。

しかし、技能実習生のコミュニケーション能力や技術を習得する能力は、とても素晴らしく半年後には、利用者様との日常会話はスムーズに行うことができるようになりました。

また、実習生の受入れ前に比べて、当施設の職員同士のコミュニケーション能力が向上し、チームワークも良くなりました。指導する際に、根拠や知識を再確認したこと、実習生を見守ることで些細な変化に気付く力を養うことができ、そして、そのことを共有する必要があったからです。

さらに、実習生の仕事に対する意欲は、私たちには真似できないほど、素晴らしいものであり、実習生の仕事への意気込み、技術を習得しようとする思いに、受入れ側の職員が刺激されることが多くありました。

休日にはリフレッシュを目的として、買い物に付き添いを行ったり、観光地巡りをしたりして、仕事以外での実習生の生活援助やメンタルケアも行いました。

入国当初は、思うように言葉が通じず、不安な事が多かったと思います。母国にいる子供や家族を想って涙を見せた日もありました。

最後に、技能実習生の受入れ目的は、「技術指導」ですが、そのためにはまず、孤独だと感じさせないこと、精神面や生活面で心のサポートも重要なことであると感じています。



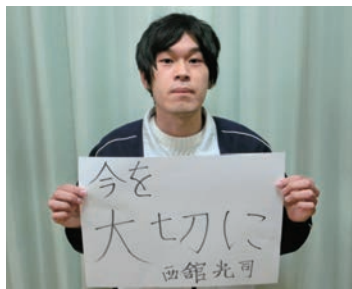
次世代からのメッセージ

今 思うこと 求められている事とは？

《軽米町》

特別養護老人ホーム

くつろぎの家



介護職員 1年目
西館 光司さん (26歳)

Q. なぜ、この仕事に就こうと思いましたが？
小学生の頃から、ボランティア活動を行ってき、利用者様と過ごす時間が楽しく、人生の先輩として学ぶことがたくさんあり、高校在学中から、自分には、介護しかないと思いました。

Q. どのような働き方を望みますか？
職員間のコミュニケーションが豊かで、差別や陰口がなく、不満等を相談しやすく、改善に向けて取り組んでくれる事業所が理想です。

Q. 介護職員の月収、いくらぐらいが理想？
手取りで20万円程度。現在は未婚なので、給与への不満はありませんが、最近、結婚したら・・・と考えることがあります。

Q. 休みの日は何をしていますか？
友達と一日中ドライブ。新商品や甘いものが大好きで気付けばカゴの中は、甘いものが山盛りです。

Q. 今、あなたができること？ 思うことは？
マイペースな性格のため、生活にメリハリをつけ、仕事で周囲へ支障が生じないようにしていきたいです。仕事とプライベートの切り替えをしっかりと行い、責任ある行動をとっていききたいと思っています。

Q. 今、あなたができること？ 思うことは？
利用者さんもしっかり向き合うこと。他には、いろんな新しいことにチャレンジしていきたいです。失敗して落ち込むことがあっても、前向きな気持ちで頑張っていきたいです。

Q. 休みの日は何をしていますか？
音楽が好きなので、いつも音楽を聴いています。

Q. 今、あなたができること？ 思うことは？
ライブやカラオケに行くのも好きで、気分転換しています。何も予定がない日は、1日中寝て過ごすこともあります。

《久慈市》

特別養護老人ホーム

愛山荘



介護福祉士 4年目
近藤 梨菜さん (22歳)

Q. なぜ、この仕事に就こうと思いましたが？
人と関われる職に就きたいと考えていました。自分の取柄である「明るさ」を生かし誰かの役に立ちたいと考えた時に想い浮かんだのがこの仕事でした。

Q. どのような働き方を望みますか？
職場内のチームワークや協調性はとても大事だと思つので、大切に働いていきたいです。あとは、息抜きをしながら体を壊さない様に、そして楽しく！

Q. 介護職員の月収、いくらぐらいが理想？
難しいです・・・命を預かっているし、肉体労働で大変なイメージはあると思うので、月に20〜25万円以上安定してもらえたら、介護に興味が増えると思います。

Q. 休みの日は何をしていますか？
音楽が好きなので、いつも音楽を聴いています。

《二戸市》

特別養護老人ホーム

白梅荘



介護福祉士 8年目
中村 凌さん (26歳)

Q. なぜ、この仕事に就こうと思いましたが？
小学生の頃、地元の老健で経験したボランティア活動が福祉に興味を持つきっかけになりました。高校で福祉について学び体験していく中で、これ以上に「やりがい」を感じる仕事はないと思い、この仕事に就こうと思えました。

Q. どのような働き方を望みますか？
お互いの価値観を受け入れ生かしながら、互いに力が発揮できるような働き方が実現できるといいなと思います。

Q. 介護職員の月収、いくらぐらいが理想？
手取り25万円前後が理想です。介護福祉士としての専門性を発揮することで、今以上に月収は高くなってもいいのかなと感じます。

Q. 休みの日は何をしていますか？
二人の娘のパパとして奮闘しています。入浴後に子供達と歌に合わせてダンスすることがマイブームです。

Q. 今、あなたができること？ 思うことは？
お客様の自立に向けて、より良い介護・支援を提供し、ニーズの実現につなげることができればいいなと思います。知識や技術等の専門性を高めて、今ある地位を高めていくことが、今後必要になってくることではないかなと思います。

～ 今、介護現場に求められているのは・・・～ 文責：くつろぎの家 南 紅梅荘 立花

誰もが安心して暮らせる 地域を目指して

特別養護老人ホームいしどりや荘
副施設長 去石 誠



社会福祉法人石鳥谷会は、花巻市石鳥谷町に平成2年8月に設立されました。以来、特別養護老人ホームいしどりや荘を中心に、様々な地域貢献事業に取り組んでいます。本稿では、その中の認知症サポート事業と子どもの居場所づくりについて紹介します。

認知症サポート事業

本会が地域貢献事業に取り組む際に、地区サロンなどを通して参加者の声を聞きました。聞かれた声には、認知症予防や介護、見守り、相談窓口など、認知症に関する内容が多く聞かれました。そこで認知症に対する専門性を活かし、認知症カフェ（通称「あったカフェ」）の開催や認知症サポーター養成講座に職員を派遣することにしました。

認知症カフェでは、街中にある酒蔵交流館を借り、喫茶店のように落ち着いた空間の中で、お茶やお菓子を食べながら、おしゃべりの中で参加者の相談を聞くなど、会話重視で実施しています。

また、認知症サポーター養成講座では、花巻市からの依頼により、市内にある学校や企業などに職員を講師として派遣します。



いしどりや荘子どもサロン

夏休み期間中で忙しい親の事情により、ひとりで過ごすことの多い小学生を対象とした「いしどりや荘子どもサロン」を実施しました。これは、社会福祉法人協働による地域公益活動 I W A T E ・あんしんサポート事業の一環として、子どもの居場所づくりを目的にしたものです。

当日は、子ども6名、保護者1名が参加し、ボールを使った運動や工作、昼食づくりなどを楽しみました。

事業を行うにあたって、花巻市社会福祉協議会石鳥谷支部様や、いしどりやワンデースクール様と連携し、学校への案内や会場設営、イベントの準備や講師など、それぞれの強みを活かし、無理なく、そして楽しく事業を行うことができました。



地域と共に

少子高齢、人口減少、労働力低下、地域の弱体化など、法人を取り巻く環境はとても厳しい状況にあります。石鳥谷会では、子どもから大人まで「いつまでもここで暮らしていきたい」と思える地域を目指し、人とのかわりを大切にしながら、これからも共に歩んでいきたいと思えます。

明生園「刻のカフェ」 (認知症カフェ)の取組

特別養護老人ホーム 明生園
熊谷 一寿



私たちの「刻のカフェ」は2018年2月から開催し、2020年2月開催で丸2年が経過しました。「ゆるやかな雰囲気の中で認知症について学びながら、認知症の理解を広げる場、そして、地域の方と福祉



や医療の専門職との出会いの場です」を合言葉に、偶数月の第1土曜日午後1時30分～3時、明生園近くの陶芸教室ギャラリーを会場に開催しています。ミニ講話(30分程度)や介護相談などを主にしてしています。地域の行政区長さんにチラシの回覧を依頼したり、市役所や地域包括支援センターなどにチラシを貼ったりして広報活動を行っています。地域の方を含めて一般参加者の方は毎回、10～20名の参加があります。これまでのミニ講話の講師は介護支援専門員、保健師、薬剤師、管理栄養士、介護をしている家族、警察官、僧侶等、多岐に渡っています。それぞれの立場から認知症のことや、

高齢者について注意すべきことなどをお話して頂きました。ミニ講話の後は、質疑応答もあり参加者全員で今回学んだことや情報を共有しています。一般参加者からは「認知症とはこういうことなのか」

「高齢者で気をつけることは、こういうことなのか」「専門家の人の話は勉強になる」「お友達ができて良かった」等と様々な感想がありました。会場の雰囲気も街中のカフェをイメージし、毎回、生ギターでの演奏をBGMに、コーヒーを飲みながら、お菓子を食ったり、ミニ講話を聞いたり、介護相談を受けられるようにしています。まだまだ馴染みは少ないですが、このカフェを地域に根づかせていきたいと思っています。予約の必要はありません。興味のある方は明生園までお問い合わせください。(開催日が変更になることがあります)



りんどう苑での看取り 介護の取組について

特別養護老人ホームりんどう苑
施設長 奈良 忍

社会福祉法人安代会は東北自動車道の安代J Cに位置し、北東北の中心となっています。

冬は一面白銀に覆われますが、初夏から初秋には国道沿いのりんどうが群青に染まり凛々しく美しい、風光明媚なところです。当苑では平成29年にモダンな照明と家具を取り入れ、多床室4人部屋はベッド間に仕切りを設けるなど居住空間の快適性を高めました。多床室ではあるのですが、しっかりと自分の空間を保ち、住み慣れていただきたいと考えています。



平成4年の開所以降、たくさんの入居者様の最期に立ち会ってきました。現在は、看取り介護という形で行っていますが、以前から施設でお亡くなりになるというのが自然にできていました。それは歴代の嘱託医のお力添えがあったことは言うまでもありません。そして、現在も田山診療

所と西根病院のご協力を得ながら、入居者様とご親族の方々が望まれる最期に微力ですがお手伝いさせていただいています。当苑においては、「最後について」サービス契約の際から意識していただくように努めています。それは提供できる医療等の機能をしっかりと理解していただく事が肝要と考えているからです。奥羽山脈に囲まれた当苑は医療資源が乏しい地域にあたり、八幡平市地域医療計画において当地区は僻地、医師過少地域として位置づけられています。救急病院への搬送も距離的なことから時間がかかってしまいます。このことから当苑が提供できる医療体制や連絡体制をご理解した上でサービス提供できるように心掛け、その過程の延長線上に施設での看取りを選択肢のひとつとしてご本人及びご親族に示しています。

入所時に、「最期について」を考えていただくことは不謹慎と捉える方も多いと思われそうですが、突然、そのような状態に陥ってから考えては、何よりご本人の意思が伝えられない場合が多いと思われしますので、入所を契機に考えていただくこともよろしいかと考えています。すぐに、延命等について意思表示をしなければならないということではなく、ゆっくりと時間をかけて考えていく過程も、より納得いく最期を迎えられるツールと考えます。

実際の看取り介護は、「特別養護老人ホームりんどう苑看取り介護に関する指針」を柱に「終末期対応マニュアル」と「緊急時（急変・事故）対応マニュアル」に則って行っています。それには各職種の共同は当然ですが、嘱託医と協力医療機関との連携が不可欠です。先月も、嘱託医からご家族へ丁寧な説明がありました。先生からは病状や予後を説明していただき、ご親族からの要望を踏まえて、りんどう苑でできる医療をお話していただきました。そして、ご親族に看取りという選択肢を選んでいただいています。まだ、勉強不足な点は多々ありますが、今後も入居して良かったと思っただけの施設を目指していきたいと考えています。





令和元年度いわて介護 フォトコンテストの入賞作品



今年で11年目を迎えたこのフォトコンテストは、少子・高齢化が進む中、人との関わりを通じて様々な喜びややりがいを得ることができる福祉の職場について、若年層をはじめ、多くの方にその魅力や重要性を伝えることを目的として実施してきました。

今年度は、ふれあいランド祭 2019 において、一般の来場者から総投票数 216 票をいただき、次の作品が入賞しました。

最優秀賞



ありがとうね

そんなことないよお

「80歳差のひととき」
特別養護老人ホーム麗峰苑

優秀賞

「孫という名の宝物」

地域密着型老人福祉施設
はらからの里



「暑さ吹き飛ばし！
ひまわり笑顔」

特別養護老人ホーム
繫松苑



「節分
～なまはげじゃ
ないよ！～」

地域密着型
特別養護老人ホーム
浮牛の里



入選

「あなたの笑顔に
メロメロ♡」

二戸市社会福祉協議会
通所介護事業所



「お誕生日
めっちゃ
おめでとう」

特別養護老人ホーム
いこいの結



「わ・た・が・し！
ア～ン！」

特別養護老人ホーム
一関ケアサポート



岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会 活動報告

地域包括支援センター活動状況調査 2019 調査結果報告書から

平成 30 年度の調査研究では、各市町村に対するアンケート調査により、地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの設置状況等基本的な全体像を知ることができました。一方、地域包括支援センターの活動状況の実態把握には至りませんでした。

このことから、令和元年度は、地域包括ケアシステムのあり方を検討することを目的として地域包括支援センターの活動状況についてアンケート調査を行い、全市町村から回答をいただくことができました。

調査報告書の一部をここでご紹介します。調査報告書は、会員施設に配付するほか、当会ホームページに掲載します。

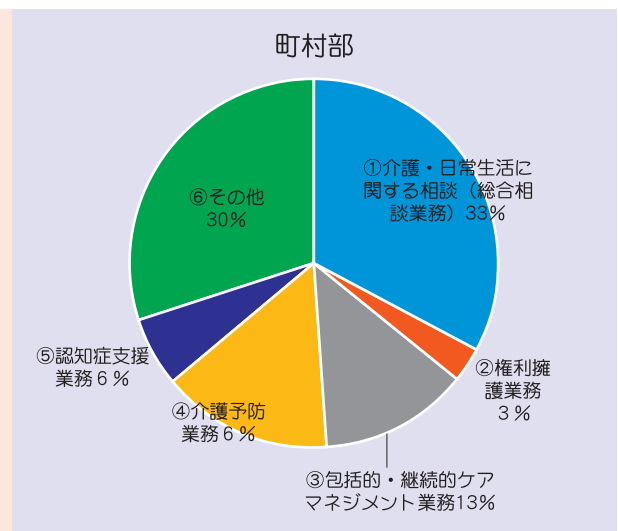
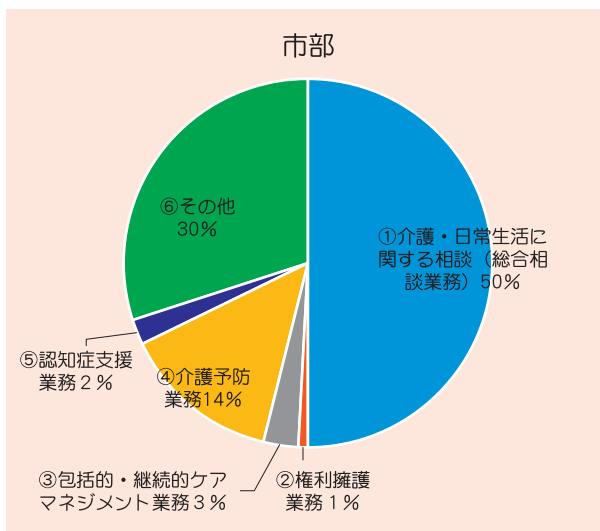
<調査項目>

- 1 地域包括支援センターの設置状況
- 2 相談対応件数
- 3 相談対応実績報告の活用方法
- 4 地域課題の把握（個別ケア会議、地域ケア会議、地域ケア推進会議ごとの参集機関、開催回数、主なテーマ）
- 5 地域課題の発見や課題の解決、政策提言等の取組事例

<相談対応件数から>

【相談件数（分野別）】（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

| | ①介護・日常生活に関する相談（総合相談業務） | ②権利擁護業務 | ③包括的・継続的ケアマネジメント業務 | ④介護予防業務 | ⑤認知症支援業務 | ⑥その他 | 計 |
|---|------------------------|---------|--------------------|---------|----------|--------|---------|
| 計 | 94,070 | 3,444 | 9,341 | 27,862 | 6,236 | 61,080 | 202,033 |



市部と町村部では、介護・日常生活に関する相談（総合相談業務）の占める割合が異なる結果となりました。

<取組事例から>

盛岡市 地域ケア推進会議（生活支援体制整備事業における第1層協議体）の取組

「高齢者のごみ出し支援」をテーマとし、見前地区の取組をモデルに位置付けて検討を行った。ごみ出し支援に係る意見交換を行い、結果を見前地区に報告した。

- (1) 見前地区住民を構成員とする「見前地区ごみ出し支援プロジェクト会議」の立上げ
- (2) 都南地区ヘルパー事業所あてアンケートの実施
- (3) 住民アンケートの内容検討（令和元年度実施予定）
- (4) モデル事業（次の三者による仕組み）の実施（1件）
 - ① ごみの分別や運搬に困っている人＝対象者
 - ② 支援者A（ヘルパー）＝対象者の自宅で分別を行い、支援者B宅に設置されたごみBoxまで運ぶ。
 - ③ 支援者B（地域住民）＝B宅にごみBoxを設置し、Aが運んできた対象者のごみと自分のごみを一緒に、収集日に地域のごみ捨て場へ運ぶ。



<地域課題の把握から> 各ケア会議の参集機関、開催回数、主なテーマを整理しました。

地域課題の把握（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

| | | 個別ケア会議 | | | | | |
|---|------|--------|--|-------------------|-----|-----------------------------|-----|
| | | 回数 | 参集期間 | 主なテーマ① | ①回数 | 主なテーマ② | ②回数 |
| 1 | 盛岡市 | 46 | 地域包括支援センター、市役所（長寿社会課、生活福祉課、保健予防課、介護保険課、地域福祉課）、社会福祉協議会、居宅介護支援事業所、通所介護支援事業所、老人ホーム、介護老人保健施設、作業療法士会、理学療法士会、病院（相談室）、民生委員、町内会、老人クラブ連合会、NPO法人 | 事例検討会、制度に関する情報提供等 | 14 | 認知症高齢者等に対する支援について | 10 |
| 2 | 宮古市 | 12 | 理学療法士会、介護支援専門員連絡協議会、薬剤師会、居宅介護支援事業所、医療機関、警察署、社会福祉協議会、宮古圏域障がい者福祉推進ネット、土木センター、健康課、福祉課、介護保険課、民生委員 | 認知症に関する支援 | 5 | 高次脳機能障がいの方が生きがいをもち生活するための支援 | 1 |
| 3 | 大船渡市 | 10 | 県立病院（病棟看護師、退院調整看護師、MSW）、本人、家族、親戚、民生委員、介護保険サービス提供事業所 | 福祉用具軽度者例外給付に係る適正化 | 4 | 退院調整 | 4 |

★総括★

相談件数等の活動実績は統一した様式がないことから、一律の比較ができず、改めて全県での実態把握・現状分析の難しさが明らかとなりました。

「個別ケア会議」は、個別の困難ケースを検討する場と捉えられ、テーマ設定が具体的で、地域で暮らしていくための課題そのままに多様性がありました。「地域ケア会議」は地域共通の個別課題の解決策を日常生活圏域で検討する場ですが、テーマ設定を見ると、「個別から地域へ」という流れが難しいことが読み取れます。「地域ケア推進会議」を開催している市町村が少なく、課題解決の糸口を見つけれない状況にあることがうかがわれます。

地域包括支援センターは市町村が設置し、地域特性に応じた活動が必要ですが、岩手県全体で住民支援の充実を図るための取組をしていきたいと感じます。

～貴重な資料が集まりました。是非、調査報告書本編をご覧ください!!～

令和元年度東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター職員研修会に参加して

令和元年 11月 14日～15日（青森市）

洋野町地域包括支援センター 社会福祉士 舘 竣哉

「令和元年度東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター職員研修会～地域共生社会の実現に向けた地域包括・在宅介護支援センターの役割～」に参加させていただきました。

1日目の基調報告・行政説明では、地域包括ケアシステムの推進や地域共生社会の実現に向けた取り組み等についての報告・説明があったほか、今後の市町村における包括的支援体制の整備に関して、①断らない相談支援 ②参加支援 ③地域コミュニティにおけるケア・支え合う関係性の育成支援 を一体的に実施する新たな事業を創設すること等について説明がありました。また、講演では「超高齢社会における救急医療体制について～ドクターヘリ・ドクターカーの運用」と題して、八戸市立市民病院院長 今 明秀先生からご講演いただきました。今先生のユーモア溢れる話の中では、八戸市立市民病院のER（救急）がどのように成長し、ブランド病院を目指したのか、そしてブランドとは「唯一・頂点・先駆者」になることでその結果、スタッフのモチベーションも上がるなどの話があり、私たちの日々の業務や組織の在り方についてヒントを得ることができ、とても参考になる内容でした。

2日目のパネルディスカッションでは、「住民参加型の地域づくり（仙台市地域包括支援センター連絡協議会）」・「認知症ケアに関する取り組みについて（安積地域包括支援センター）」・「多職種連携による権利擁護について（鹿角市花輪・尾去沢地域包括支援センター）」の3つのテーマについて発表がされました。発表の中では、地域の課題探しにとらわれてしまうのではなく、地域を見直す視点で考えると新たな気づきが生まれること、認知症の方が地域で安心して暮らすための方法を住民主体で考えることが重要であること、複雑化する権利擁護問題に対して司法との連携体制が必要なことなどについて、具体的な取組事例を基に説明がされ、地域共生社会の実現に向けての取組が各所で進められていると実感しました。



今回の研修を通して、今後は「本人・家族」だけではなく「地域」という幅広い視点を持って日々の相談支援を行いつつ、住民が主体的に参加して住民が考える方向性に基づく支援を私たち専門職が引き出していかなければならないと思いました。地域包括・在宅介護支援センターは、より地域に近くむしろ地域の一員であり、地域共生社会の実現のために欠かせない組織であると改めて実感するとともに、今回の研修での学びを日々の業務に生かしていきたいと思えます。



令和元年度 岩手県地域包括・
在宅介護支援センターフォーラムに参加して

令和元年 10月25日（ふれあいランド岩手）



サンホームみやこ在宅介護支援センター 小笠原 里那

講演は、株式会社 Studio-L 出野紀子様から「コミュニティデザイン 地域で長く楽しく暮らす」をテーマに、秋田県で開催された展覧会「2240 歳スタイル」や「これからの介護・福祉を考える デザインスクール」など、これまで行われたプロジェクトについてお話していただきました。コミュニティデザインとは、人と人をつなげる方法をデザインすることであり、そこには「楽しさ」が重要であることを、お話を通して感じました。

パネルディスカッション「私たち、岩手で楽しく暮らしています」では、認知症カフェを開催されている「ひまわりの会」久喜美知子様、車いすバスケットボールチーム「ラッセル岩手」で選手として活躍されている大和田洋平様、「コミュニティ食堂わらしゃん丼」を運営されている野中晋様より、現在行っている活動の立ち上げのきっかけや活動内容についてうかがいました。困難なことも少なくない中、受け入れてくれる地域との出会いや周囲の方から協力を得られたことが活動継続につながっていることがわかりました。

これらのお話から、活動を始めようとしている地域や周囲の方から理解と協力を得ることの重要性を再確認しました。当法人では認知症カフェやサロン活動をしています。民生委員や地域住民など多くの方の協力によって続けられていることを改めて感じました。今回のフォーラムで得られたことを活かしながら、今後の活動に取り組んでいきたいと思ひます。

西和賀町地域包括支援センター 高橋 勇気

実際に地域に入り活動をしている方々を主としたフォーラムだったので、地域サロン等で町内を走り回っている私には身近な内容であり、非常に参考になるお話でした。また、集いの場を形成していく大変さや楽しさについて再確認することもできました。

講演では、普段地域とあまり関わっていない方でも、きっかけがあれば地域に交わっていくようになることを学びました。人口が少なく、特に若い年齢層が少ない当町のような地域では、特にこのような取組が必要になっていくと感じました。今まで以上に地域内の連携が必要となり、難しい課題ではありますが非常に重要であり、取り組んでいかなければならないことを改めて感じました。

パネルディスカッションでは、地域で活動されている方々の話を聞くことができ、これからの業務にとって非常にたくさんのヒントをいただきました。その中でも、とりわけ印象に残っているのは、ラッセル岩手の大和田洋平さんが語られていた「下半身不随になったが、車いすバスケの活動から生きる希望が湧き、今もたくさんのことを頑張っている」というお話です。同じような境遇の中で絶望してしまっている方は、きっとたくさんいると思ひます。大和田さんの活動を見る・知ることで、そういった方々へ希望を持って頑張っていけることが伝わってほしいと感じ、非常に大きく心が動かされました。

これから先、私が地域に入っていくことはもっと増えていきます。今回学んだ事を活かしながら成長していきたいと思ひます。



おしらせ

令和2年度東北ブロック地域包括・在宅介護支援センター職員研修会を

開催します!!

●令和2年度は、岩手での開催となります。

★期 日：令和2年11月12日（木）～13日（金）

★会 場：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

★テーマ：地域共生社会の実現に向けた介護予防・地域づくりの推進

★内 容：行政説明（厚生労働省）、講演（講師：一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長 中村秀一氏）、パネルディスカッションほか。

～県外の皆さんとの交流の機会となりますように、

たくさんの参加をお待ちしています。～

編集者名簿

【岩手県社会福祉協議会高齢者協議会 総務委員会 実務者委員】

| ブロック | 氏名 | 所属施設 |
|------|-------|-------------------|
| 中央 | 山口 薫 | 特別養護老人ホーム第二松園ハイツ |
| 中央 | 畠山 虎 | 特別養護老人ホーム麗峰苑 |
| 県南 | 畠山 文明 | 特別養護老人ホームサンガ |
| 県南 | 鎌田 美穂 | いしどりや荘デイサービスセンター |
| 両磐 | 後藤 弘次 | 関生園デイサービスセンター |
| 両磐 | 菊地 明美 | 特別養護老人ホームやまぶき荘 |
| 沿岸 | 菊地 勤 | 特別養護老人ホームふれあい荘 |
| 沿岸 | 鈴木 彰 | 地域密着型介護老人福祉施設三峯の杜 |
| 県北 | 立花 宏美 | 養護老人ホーム紅梅荘 |
| 県北 | 南 有紀 | くつろぎの家デイサービスセンター |

【岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会 広報地区支援委員会委員】

| 職名 | 地区協議会 | 氏名 | 所属施設 |
|-----|-------|---------------------|--------------------|
| 委員長 | 県南地区 | 高橋 健榮 | やまゆり荘在宅介護支援センター |
| 委員 | 沿岸地区 | 葛 浩史 (～令和2年10月) | 清寿荘在宅介護支援センター |
| | | 清野 信雄 (令和2年11月～) | 東釜石地区在宅介護支援センター |
| 委員 | 県南地区 | 菅野 江美 | 羽衣荘在宅介護支援センター |
| 委員 | 県北地区 | 小田 一 | 久慈市地域包括支援センターランチ山形 |
| 委員 | 両磐地区 | 及川 美和 | 興田在宅介護支援センター |

Vol.22

令和2年3月

つながり

TSUNAGARI

〔発行人〕渡辺 均、佐々木 茂伸

〔発行年月〕令和2年3月

〔発行所〕〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳8地割1番3

ふれあいランド岩手内

社会福祉法人岩手県社会福祉協議会 高齢者福祉協議会

岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会

TEL019-637-4466 FAX019-637-4255